

『人々を援助する』 ～ 『自分の人生の意味を見出す』 ～

2025年2月3日早朝、若き日読んだヴィクトール・E・フランクル(1905-1997)の『夜と霧』を復読した。【『あなたを待っているものに目を向けてください。—— 大切なのは、あなたの心の中に潜んでいるものではなく、未来であなたを待っているものなのです』&『私は他の人々が人生の意味を見出すのを援助することに、自分の人生の意味を見出しました』】の復学となった。『夜と霧』(ドイツ語:Ein Psychologe erlebt das Konzentrationslager、英語:Man's Search For Meaning: An Introduction to Logotherapy)は、第二次世界大戦中にナチスの強制収容所に収監されたヴィクトール・E・フランクルの書籍である(1964年出版)。

最近、筆者は『空海(真言宗)(774-835)、最澄(天台宗)(767-822)、道元(曹洞宗)(1200-1253)、法然(浄土宗)(1133-1212)、親鸞(浄土真宗)(1173-1263)、日蓮(日蓮宗)(1222-1282)の流れ』を質問される。筆者は、若き日、法然に関する本、弟子の親鸞の『歎異抄』を熟読したものである。内村鑑三(1861-1930)著『代表的日本人』には日蓮も含まれている。

空海と最澄は遣唐使として留学している。【空海は新約聖書、最澄は旧約聖書を日本に持ち帰った。また 聖徳太子(574-622:遣隋使の時代)の『17条憲法』と親鸞の『歎異抄』には聖書的な言葉もありますね!?(中国には当時景教が入っていたので) また、浄土真宗の本願寺の倉庫には、聖書マタイ伝に親鸞がサインしているものがある】と聞いたものである。今回【がん哲学外来『あんしんカフェてんねい』】代表の沖悦子氏(天寧寺住職の奥様)に『真実はどうでしょうか?』との宿題を出した。回答が楽しみである。

2024年6月9日【がん哲学外来『あんしんカフェてんねい』3周年記念講会&ライブ】の会場(東京都青梅市にある曹洞宗の『天寧寺』)に赴いた。想えば、筆者は、2019年『教会でもがん哲学外来カフェを始めよう』(日本キリスト教団出版局)の編集の機会が与えられた。沖悦子氏が今回、新刊『お寺でもがん哲学外来カフェを始めよう』を製本されると歴史的快挙となろう!